

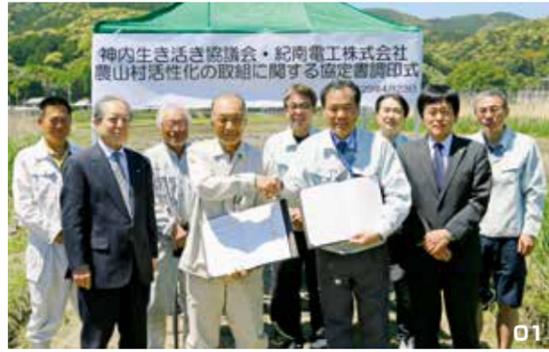
神内生き活き協議会と紀南電工株式会社が

農山村活性化に向け協定を締結

神内生き活き協議会と紀南電工株式会社は4月23日、県と町の仲介により「農山村活性化の取組に関する協定書」を締結しました。

神内生き活き協議会では農業者の高齢化が進んでいることから、神内地区において耕作放棄地の増加を懸念しています。また、紀南電工株式会社も、地域との交流や地域貢献が何かできないか探していた中で、今回の協定を結ぶことになりました。

協定締結後、紀南電工(株)の関係者約40人は、神内生き活き協議会のメンバーとともに、手作業で17アールの田植え作業を行いました。今後も稲刈りなどの作業を通じて交流を図っていきます。



01. 猿口会長(中央左)と紀南電工(株)の矢野社長(中央右)ら。02. 田植えをする紀南電工のみなさん。



Town topics
4/23

ウミガメの産卵を願って

七里御浜の清掃活動を実施

近畿地方環境事務所は4月23日、熊野市から新宮市にかけての海岸で「第5回七里御浜・王子ヶ浜一斉クリーン作戦」を行いました。

これは、ウミガメが産卵しやすい環境をつくるため毎年行っているもので、町では井田海岸にて住民や町ウミガメ保護監視員など約200人が参加しました。

曇一つない好天のなか、参加者たちは、海岸に打ち上げられたペットボトルや空き缶などのごみや流木を一生懸命拾い集め、軽トラック約2車分のごみを回収しました。

Town topics
4/23



海岸を人海戦術で清掃する参加者たち

「まちの賑わい」について若者たちが考える

紀宝町げんき塾が開講

町は4月21日、役場大会議室にて「紀宝町げんき塾」の開講式を行いました。

これは、まちの賑わいをテーマに講義やグループワークを行い、町の課題解決に向けた検討やまちづくりへの関わり方などを考えていくもので、第1期の塾生は、23歳から50歳までの22人となっています。

開講式では、塾生の自己紹介に続き、三重大学の西村訓弘副学長が「地方にいても世界と戦える。時代をつかみきってそれを活かせるかどうか。最も重要なことは不戦敗をしない、自分からあきらめないことです」と講演しました。

Town topics
4/21



01. 西村副学長による講演。02. 自己紹介をする塾生たち。



アイガモを放ち安心安全な米づくり

園児がアイガモ農法のお手伝い

相野谷保育所の園児16人が4月28日、阪松原地区でアイガモ農法に取り組んでいる田中義輝さんの水田にヒナ15羽を放しました。

アイガモ農法とは、田植え後の水田にアイガモを放ち、雑草や稲の成長に害となる虫を駆除させる農法です。安全な米を作りたいとの思いから、平成7年に紀宝町合鴨無農薬米生産部会が設立され、田中さんは昨年からはアイガモ農法に取り組んでいる町内で唯一の農家です。

園児たちは、体長約20cmのヒナをコンテナから優しく取り出し、水田にそっと放しては、「アイガモさん、がんばって!」と声をかけていました。

Town topics
4/28



01. アイガモを水田に放す園児たち。02. 田んぼで元気に泳ぐアイガモ。03. アイガモをやさしくつかむ園児。



Town topics
5/11

01. ドロニガナ。02. サツキ。03. ガンピ。04. 山口さんが昼嶋に生息する植物の特徴を説明。05. 昼嶋までは川舟で移動。



成川小学校が希少植物観察会を実施

植物を通じて地域を学ぶ

成川小学校5、6年生23人は5月11日、浅里地区で、熊野川流域に生息する希少な植物の観察会を行いました。

これは、貴重な植物があることを学び、それらを大事にする気持ちをもってもらいたいとの思いから行われたもので、北桧杖の荘司健さんと成川の山口和洋さんが、熊野川沿いの岩や昼嶋に生息するドロニガナなどの希少種について説明しました。

山口さんは、「ここに生息する植物は、洪水になっても耐えられるように、体を小さく葉を細く、根っこを大きくして岩にへばりついています。そのため紀伊半島大水害のときにも、植物たちは負けずに生きています。」と話し、説明を聞いた生徒たちは、周りに生息する植物たちを興味深く見つめていました。